

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会  
2023 年度事業報告書

ご挨拶

2024 年 1 月 1 日能登半島地震により犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表すとともに、被災された皆様、また、ご家族・関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

1 月 3 日に開催いたしましたアメリカンフットボール日本選手権ライスボウルでは、急遽会場で被災地への義援金を募り、30 万円を超える支援が寄せられました。この義援金はライスボウルのお客様に代わり、会長の寺田昌弘が 1 月 6 日に石川県東京事務所を訪れ、直接中谷安孝所長に渡してまいりましたことを報告いたします。

## I 活動報告

2023 年度（2023 年 4 月 4 日～2024 年 3 月 31 日）は、当協会にとって公益社団法人としての第 11 期となり、定款・規程・規則に則った協会運営を進めた。

新型コロナウイルス感染症は 5 類と位置付けられ大幅に規制緩和されたことに伴い、各加盟団体の活動も以前の状態の戻りつつあり、各地域で公式戦を行い、社会人、大学、高校、中学とも各世代で日本選手権が開催され、それぞれシーズンを終えることが出来た。

講習会、クリニック、フットボール教室等、選手・指導者が参加する行事の一部は Web 開催が有効であることから、実開催と併用した。また、国際大会、国内大会も予定通り開催された。

2023 年 10 月にマレーシア・クアラルンプールで開催された「IFAF Asia Oceania Flag Football Continental Championships」に男女日本代表を派遣し、女子が優勝、男子が 3 位入賞を果たした。4 月 3 日に発表された IFAF 世界ランキングで、女子は 3 位、男子は 9 位に位置付けている。

### 1) 日本スポーツ協会公認指導者養成事業

定款第 5 条第 1 項第 1 号に関連する事業として、公益財団法人日本スポーツ協会が主催する公認指導者養成事業の一つとして、アメリカンフットボール競技に関するコーチ資格の専門科目講習会を開催した。

4 日間の講習プログラムを 2 つの日程で組み、座学はオンライン形式で、実技は会場で開催した。両日程の受講者は、合計 24 名であった。

#### 【A 日程】

- ・7 月 8 日（土） 【第 1 日】 JAF A 事務所会議室（座学オンライン形式）
- ・7 月 15 日（土） 【第 2 日】 早稲田大学東伏見会場（実技講習）
- ・7 月 16 日（日） 【第 3 日】 JAF A 事務所会議室（座学オンライン形式）
- ・7 月 22 日（土） 【第 4 日】 早稲田大学東伏見会場（実技講習）

#### 【B 日程】

- ・1月13日（土） 【第1日】 JAJA 事務所会議室（座学オンライン形式）
- ・1月14日（日） 【第2日】 JAJA 事務所会議室（座学オンライン形式）
- ・1月28日（日） 【第3日】 大阪産業大学附属高校（実技講習）
- ・2月4日（日） 【第4日】 大阪産業大学附属高校（実技講習）

また、公認指導者向けの更新講習会を下記の日程でオンライン開催した。両日程で参加者は49名であった。

- ・7月9日（日） 9：00～12：00 オンライン研修
- ・1月27日（土） 9：00～12：00 オンライン研修

## 2) コーチクリニック、フットボール教室

定款第5条第1項第1号に関連する事業として、日本スポーツ振興センターのくじ助成を得て、「フットボールアカデミー」を下記の通り実施した。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行により、本格的な練習が始まる年となり脳出血などの重大事故も散見されるようになった。

「JAJA フットボールアカデミー」は重大事故の未然防止等、選手の安全を守る観点から、ユースならびに高校生、大学入学後に初めてフットボールを始める選手たちを焦点に、関連スタッフも含めて研修するものであり、公認指導者養成講座専門課程テキストの「ショルダータックリング」、「ヘッズアップ・ブロッキング」を活用した座学・実技指導及び「からだづくりプログラム」などを行っている。

加盟団体からの要請に基づき下記日程にてアカデミーを実施した。

### 【開催されたクリニック】

- ・2023年4月10日（月）：高校生指導者クリニック（日本高等学校連盟）
- ・2023年6月18日（日）：ヘッズアップアカデミー（東海学生連盟）
- ・2023年6月25日（日）：ヘッズアップアカデミー（東北学生連盟）
- ・2023年7月2日（日）：ヘッズアップアカデミー（北海道学生連盟）
- ・2024年3月8日（金）：ヘッズアップアカデミー（中四国学生連盟）
- ・2024年3月16日（土）：ヘッズアップアカデミー（沖縄アメリカンフットボール協会）

※以上は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施した。

また、指導者を対象に課題の共有及び解決策の手掛かりや機械を得るために、日本を代表するコーチの講演を「コーチコンベンション」として2024年1月20日に開催し、全国から72名のコーチが集い議論を深めた。

フラッグフットボールに関しては、国際大会のルールを浸透させることを目的に講習会を開催した。2023 年は新規チームの数が少なかったため、春季大会中に経験者が側に立ってメカニクスを指導する形式で行った。

【開催されたクリニック】

- ・2023 年 6 月 4 日（日）：千葉日大高校を対象（於慶應嵐が丘グラウンド）
- ・2023 年 6 月 18 日（日）：埼玉栄東を対象（於明学東村山）

3) 川崎市まちづくり推進連絡調整会議参加とアメリカンフットボールの普及活動

定款第 5 条第 1 項第 1 号及び第 11 号に関連する事業として、川崎市のまちづくり推進連絡調整会議に参加し、アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくりと、川崎市におけるアメリカンフットボールの普及発展に努めた。

2007 年、川崎市と本法人との間で「アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくり」に関する包括協定を締結し、川崎市主導の「まちづくり推進委員会」に参加してきたが、2015 年 3 月に富士通スタジアム川崎が完成したことから、川崎市関連団体、川崎市市民団体、アメリカンフットボール競技団体が一体となって、2016 年 2 月、川崎市の協力を得て、富士通スタジアム川崎を活用したまちづくりを推進するために、「アメリカンフットボールを活用したまちづくり推進連絡調整会議（議長：間野義之早稲田大学スポーツ科学学術院教授）」を発足した。

2023 年度は、社会に貢献できる活動に積極的に取り組む「社会性」、地元企業や教育機関との関係性を構築して進める「地域性」、多くの方に興味を持ってもらう「話題性」の 3 つのテーマを掲げ活動を展開した。「社会性」では、緊急時対応に知識を身につける「緊急フェス」を医師のトークショーも交えながら開催した。また、川崎市内の工房と連携し、ベンチづくり・黒板づくりを通して、環境問題の関心を高める取り組みを行った。「地域性」では、川崎市内に拠点を置くキッチンカーに出店していただき、話題性や賑わい創造の連携を図った。また東海道川崎宿起立 400 年イベントとして、人力車や塩づくり体験会などを川崎区役所と連携した。

日本選手権ライスボウルのセミファイナルを等々力競技場で開催して PR 範囲の拡大にも努めた。「話題性」では、オープニング国歌斉唱に元宝塚歌劇団の「五十鈴ココ」さんを、またハーフタイムに国内で有数の DJ「PACHI-YELLOW」さんを起用し、新たな顧客の創造を手掛けた。秋季リーグの開幕に合わせ、ファンも参加できる双方向型のカンファレンスを川崎ルフロンのかき場で行った。

また、6 月～2 月にかけて川崎市立小学校を中心に、指導員を派遣し、体育の授業としてフラッグフットボールの楽しさと基本的な技術（戦術）を指導する「フラッグフットボール巡回教室」を実施した。実施した学校は 100 校、参加した生徒は延べ 19,814 人であった。

※以上は、川崎市からの委託費を受けて実施した。

#### 4) 国際競技力向上に向けた事業

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、各世代の有力選手を募り、日本代表候補選手の育成、競技力向上を目指して、クリニックや合同練習を行った。また、活動を通して指導者の交流や指導力の向上にも役立てた。国内での練習や試合だけでなく、海外遠征も行った。

##### ① U-15・U-17 フラッグフットボール国際試合（世代：14～17歳、男女）

2023年7月にアメリカ合衆国ノースカロライナ州で開催されたUSA FOOTBALL主催のフラッグフットボール国際試合（JUNIOR INTERNATIONAL CUP）に15歳以下、17歳以下、男女それぞれの4チームを派遣するため日本選抜選手の発掘・育成・強化練習を実施し、ジュニア世代フラッグフットボール選手の競技力向上を図った。また大会は2024年にも予定されるため、帰国後も、継続して日本選抜選手の発掘・育成・強化練習を実施した。

- ・2023年4月 東日本地区合同練習、西日本地区合同練習、各1回
- ・2023年5月 東日本地区合同練習、西日本地区合同練習、各1回
- ・2023年6月 東日本地区合同練習、西日本地区合同練習、各1回

##### 【大会前の練習、選考会含む】4月9日～7月2日

[U-17 男子] 関東地区選考会×1回、関東地区練習×6回  
関西地区選考会×1回、関西地区練習×2回  
合同練習×2回、を実施

[U-15 男子] 関東地区選考会×1回、関東地区練習×6回  
関西地区選考会×1回、関西地区練習×2回  
合同練習×2回、を実施

[U-17 女子] 関東地区選考会×1回、関東地区練習×2回、関西地区練習×3回  
合宿×3日（5月3～5日）、を実施

[U-15 女子] 関東地区選考会×1回、関東地区練習×6回、関西地区練習×1回  
合宿×3日（5月3～5日）、を実施

##### 【海外遠征（大会参加）】（15U/17U 男女4チーム）

- ・2023年7月3日～9日 USA FOOTBALL主催 ジュニア・インターナショナルカップシヤールロット大会

##### 【大会後の選考会及び練習】2024年1月6日～3月24日

[U-17・15 男子] 関東地区選考会×2回、関西地区選考会×2回、を実施

[U-17・15 女子] 関東地区自主練習会×1回、関西地区自主練習会×1回、  
東西合同選考会×4回を実施

※以上は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施した。

② フラッグフットボール日本代表国際試合（世代：18歳以上、男女）

2023年10月25日～30日にマレーシアのクアラルンプールで開催された国際アメリカンフットボール連盟（IFAF）主催のフラッグフットボールの第1回アジア・オセアニア大陸選手権に男女2チームを派遣するため日本代表選手の発掘・育成・強化練習及び合宿を実施し、フラッグフットボールの競技力向上を図った。更に、競技人口が少ない女子については競技未経験者を対象とした体験会も開催した。また、2024年度は世界選手権が予定されているため、帰国後も継続して日本代表候補選手の発掘・育成・強化練習を実施した。

【大会前の練習】

- [男子] 関東地区選考会×7回、関東地区練習×4回  
関西地区選考会×7回、関西地区練習×2回
- [女子] 関東地区選考会×2回、関東地区自主練習×4回  
関西地区選考会×2回、関西地区自主練習×4回  
合同練習×4回、体験会×1回、合宿×3日（9月7～9日）、を実施

【海外遠征（大会参加）】（男女2チーム）

IFAF 主催 第1回アジア・オセアニア大陸選手権  
マレーシア・クアラルンプール 2023年10月25日～30日

【大会後の選考会及び自主練習】2023年11月23日～2024年3月20日

- [男子] 関東地区選考会×5回、関東地区練習×3回  
関西地区選考会×5回、関西地区練習×1回  
東西合同選考会×2回
- [女子] 関東地区選考会×5回、関東地区自主練習×2回  
関西地区選考会×5回、関西地区自主練習×2回

③ フラッグフットボール日本選手権の開催

フラッグフットボール日本選手権は、地区大会を経て（北海道、南関東、東海、関西、中四国、九州、沖縄地区）代表が選手権を戦った。また、試合を通して将来および現在のフラッグフットボール日本代表候補選手の発掘も行った。

- A) 小学生の部：2023年12月17日、吹田市MKタクシーフィールドエキスポ
  - ・小学生高学年 優勝：ノジマ相模原ライズ Jr（南関東地区）
  - ・小学生低学年 優勝：ユナイテッドセントラルホワイトエース（南関東地区）
- B) 中学生の部：2023年12月24日、神戸市王子スタジアム
  - ・中学生 優勝：慶應ジュニアユニコーンズ（南関東地区）
  - ・中学生女子 優勝：オービックシーガルズミズ（南関東地区）
- C) 一般の部（高校生以上）：2024年3月30・31日、富士通スタジアム川崎

- ・一般男子 優勝：リバーサイドギャンブラーズ市川（南関東地区）
- ・一般女子 優勝：千里山ブラックジャガーズレディース（関西地区）

④ シニア日本代表候補選手発掘・合同練習（世代：20歳以上）

アメリカンフットボールシニア世界選手権開催スケジュールは未定であるが、2024年1月21日の日米国際親善試合「ドリームジャパンボウル」にあわせ、シニア代表を選抜し人材発掘を行った。

また、U19に代わりU20の世界大会が2024年6月にカナダで開催されることから、3月に代表選手選抜のためのコンバインを関東、関西地区で開催し、現在一次選考が終了したところであり、次年度には二次選考を行い代表を決定する予定である。

※U20一次選考は、JSCスポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施した。

⑤ クロスオーバーアスリート合同トライアウト（世代：16歳以上）

日本は少子高齢化社会で、若者が減少していることは既知のことである。あわせて高校でスポーツクラブ活動を行っていた若者が、大学入学を機にスポーツから離脱してしまう比率が非常に高いことが判明している。離脱の理由は様々であろうが、その中には何らかのスポーツを続けたい若者もいることは確かである。そうしたことを踏まえ、他競技経験者の中からアメリカンフットボール選手として活躍できる人材を発掘し、大学で競技に取り組んでもらうモチベーション、インセンティブを付与できるよう、高校生を対象にNFLコンバイン種目で測定し、アメリカンフットボール未経験を踏まえた体験会を実施した。参加者の86%が有意義である、また77%が大学からのアプローチがあり、59%がアメリカンフットボール部に入りたいと回答しており、いくつかの成果を上げることが出来た。

2023年度は学生連盟8地区全てでの実施を目指したが最終的に5地区の開催となった。

- ・7月29日（土）関東地区：アミノバイタルフィールド
- ・8月5日（土）九州地区：久留米大学医学部グラウンド
- ・8月6日（土）東海地区：愛知学院大学日進キャンパス
- ・8月11日（金・祝）関西地区：MKタクシーフィールドエキスポ
- ・8月26日（土）中四国地区：広島広域公園第二球場

（地区学生連盟5地区）において開催、計27名が参加した。

⑥ 地域クラブ活動支援プログラム（世代：16歳以上）

長期育成プログラムの趣旨に沿った、高校生クラブ活動を行う団体に対して、立ち上げや活動等の支援を実施。自立したクラブとして、活動できるように、各参加団体の協力を得ながら、活動の支援を行なっていくこととしているが、今年度は着手できなかった。

⑦ 若年層の競技人口拡大のための指導者支援及び環境整備支援（小中高世代）

小中学生育成ビジョン作成に向けて小中世代の指導者、ドクター、トレーナー7名が参加する

プロジェクトチームを立ち上げた。現場の指導者にアンケートを実施し 46 名から回答を得た。この回答をもとに 2024 年度中にビジョン作成を目指す。

⑧ 海外リーグへ挑戦する選手を発掘する（世代：20 歳以上）

国際競争力向上の為、国内トップレベル選手が海外リーグ参加へ挑戦出来る環境を整える。世界のトップレベルである北米のプロリーグ等の挑戦を後押しする。

- ・残念ながら今年度はアメリカとカナダ以外の国籍の選手を対象とした CFL グローバルコンバインに招待された選手はいなかった。

⑨ その他

A) LTAD プログラム策定

日本代表選手及び、海外プロリーグに到達可能性のある選手の発掘及び育成に向けた環境整備に関わる調査の実施、及びその分析を通じた知見の獲得を目的として筑波大学の松尾博一助教から学術指導を受ける契約を締結し 3 年目を迎えた。この学術指導に基づいて Long Term Athlete Development (“LTAD”=「長期的なアスリート育成」) プログラムを策定中であるが、2024 年度には完成の予定である。

B) 高校指導者向け講習会（再掲：2）コーチクリニック、フットボール教室）

若年層の競技人口拡大のために指導者を支援することが重要との観点から、日常的に極めて大きな負荷がかかっている高校の指導者に向けて現場支援の一環として、クリニックを開催した。

- ・ 2023 年 4 月 10 日（月）： Zoom 形式で高校生指導者クリニックを開催  
講師：NFL クリーブランド・ブラウンズ元アシスタントコーチの小坂恭平氏

※高校指導者向け講習会は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施した。

5) アメリカンフットボール日本選手権「ライスボウル」の開催

定款第 5 条第 1 項第 3 号に関連する事業として、アメリカンフットボール日本選手権「第 77 回ライスボウル」を主催した。

社会人同士の対戦となり 3 回目を迎えたライスボウルであるが、第 3 クォーターまで同点の展開となり、ファンが求めている緊迫感、試合の質の高さを十二分に見せてくれた試合内容であった。結果は富士通がパナソニックを 16 対 10 で退け、3 年連続 8 度目の日本一に輝いた。

来場者は 20,202 人となり、昨年より 3,400 人増加しており、さらに増やす工夫を考えたい。

6) 高校連盟及びユース・フットボール総括団体の主催試合等に対する後援ならびに助成

定款第 5 条第 1 項第 3 号に関連する事業として、以下の大会を後援した。

- ・ 関西高等学校パシフィックリムボウル（海外交流大会）  
2023年 7月 29日（土） 関西学院第3フィールド
- ・ 高等学校日本選手権大会決勝戦、（第54回クリスマスボウル）  
2023年 12月 24日（日） 横浜スタジアム
- ・ チェスナットリーグ決勝戦、（第36回チェスナットボウル）  
2023年 12月 24日（日） MK タクシーフィールドエキスポ
- ・ 東西地区選抜高等学校アメリカンフットボール対抗戦（第13回ニューイヤーボウル）  
2024年 1月 7日（日） MK タクシーフィールドエキスポ
- ・ 第10回日本中学生アメリカンフットボール選手権  
2024年 1月 8日（月・祝） 富士通スタジアム川崎

#### 7) 国際試合の主催・後援

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、次の通り、国際試合の後援を行った。

##### ① DREAM JAPAN BOWL 2024

日米親善を図りつつアメリカンフットボールの競技者に国際競争力向上の機会を与えるため、国内トップレベルの選手が米国アイビーリーグの選抜チームと対戦する国際試合が行われており、その大会を後援した。試合は全日本選抜が10対5で勝利し、両国の代表チーム同士の試合における歴史的初勝利をあげた。

##### ・ DREAM JAPAN BOWL 2024

試合日程：2024年 1月 21日（日）

試合会場：国立競技場

対 戦：全日本選抜チーム 対 米国アイビーリーグ選抜チーム

主 催：一般社団法人 日本社会人アメリカンフットボール協会

##### ② パシフィック・リム ボウル 2023

今年で17回目を迎えたアメリカオレゴン州のアシュランド高校と関西高等学校選抜チームの親善試合が開催された。選手の強化と国際交流が図られていることから、その大会を後援した。

##### ・ 試合日程：2023年 7月 29日（土）

試合会場：関西学院第3フィールド

対 戦：関西高等学校選抜 対 米国アシュランド高校選抜チーム

主 催：関西高等学校アメリカンフットボール連盟

#### 8) 国際試合へのチーム派遣

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、下記のフラッグフットボール国際試合に、男

女日本代表チームを派遣した。

また、国際アメリカンフットボール連盟（IFAF）は、フラッグフットボールのオリンピック競技化と IFAF が国際オリンピック委員会の正加盟競技団体となることを目指し、様々な活動を行ってきたが、それが実を結び、フラッグフットボールが **2028** 年ロサンゼルス・オリンピックで正式種目として実施される。しかし、オリンピック本選に参加するためには、海外強豪国との試合経験を積み、選手の実力向上を図ることはもとより、フラッグフットボールの世界ランキングを上げて世界選手権（**2024** 年はフィンランドで開催される）に出場して好成績を修める必要がある。

そのために、世界選手権の大陸予選と位置付けられている下記①の大会へ男女日本代表チームを派遣した。

#### ① 国際連盟主催のフラッグフットボール・アジア・オセアニア大陸選手権

**2024** フラッグフットボール世界選手権出場権にも係ることから、男女日本代表チームを派遣した。

・日 程：2023年10月27日～29日（遠征日程10月24日～30日）

開催地：マレーシア・クアラルンプール

出場国：男子11ヶ国、女子9ヶ国

フラッグフットボール大陸選手権が、アジア・オセアニア地区で初めて開催された。世界ランキング6位の女子日本代表は9ヶ国が参加する中で優勝し、また世界ランキング11位の男子日本代表は、大会中に主力選手の負傷離脱があったがそれを乗り越え、3位を獲得した。

これを踏まえ2024年4月3日にIFAFが発表した世界ランキングでは、女子3位、男子9位とそれぞれ順位を上げ、2024年度の世界選手権の参加資格を獲得した。2028年のオリンピック出場、そしてメダル獲得を目標に掲げ、更なるランクアップに向けて強化練習を予定している。

#### 9) 国際試合への審判員の派遣

定款第5条第1項第4号に関連する事業として2023年10月にマレーシア・クアラルンプールで開催された「フラッグフットボール・アジア・オセアニア大陸選手権」に、審判員4名を派遣した。

経験豊富な審判員は当該大会で高い評価を受け、1名については2024年度のフラッグフットボール世界選手権審判のオファーもあった。

#### 10) 競技規則の制定・告知・頒布

定款第5条第1項第5号に関連する事業として、競技規則委員会（2023年3丁目月開催）の決定に基づき、アメリカンフットボール競技の2023年度公式規則について、2022年度公式規則からの変更内容を決定し、4月発行予定の2023年度・公式規則変更予定報および7月発行予定

の 2023 年度・公式規則変更内容・決定報を通じて、加盟団体に周知した。

- ・ 2023 年 4 月 1 日、「2023 年度・公式規則変更予定報」として変更内容の概要を告知した。
- ・ 2023 年 5 月 23 日、「2023 年度・公式規則変更予定報（変更）」として改めて変更内容の概要を告知した。
- ・ 2023 年 7 月 7 日、「2023 年度・公式規則変更内容決定報」として 2022 年度公式規則からの変更内容、関係する条文の変更および追記内容を告知した。
- ・ 予定報、決定報、公式規則・公式規則解説書はいずれも PDF を日本協会のホームページに掲載した。

## 1 1) 安全対策

### ① 安全対策全国会議

定款第 5 条第 1 項第 6 号に関する事業として、2024 年 2 月 17 日（土）に全国の加盟団体の安全対策担当者の参加を得て、「第 31 回 JAJFA 安全対策全国会議」をオンライン形式で開催した。各団体のこの 1 年間の安全対策活動と、重大事故、試合時の外傷の報告及びドーピング検査報告、次年度予定報告があった。

重大事故としては、急性硬膜下血種がほとんどを占めており、新型コロナウイルス感染症に伴い練習不足であることが起因しているのではないかと、普段からの首の筋肉を鍛えつつ、HUF（ヘッズアップフットボール）に徹した当たり方を指導することが大事であるなどの詳細な検討を行った。

2024 年 1 月 3 日のライスボウルにて行われたドーピング検査の結果は 4 名全員陰性であった、次年度もライスボウルにてドーピング検査が行われる予定である。また、国際試合では検査が行われることを前提として教育等準備する必要があるとの報告があった。

### ② 日本アメリカンフットボール医・科学研究会

定款第 5 条第 1 項第 6 号に関する事業として、2024 年 2 月 18 日（日）に、「第 26 回日本アメリカンフットボール医・科学研究会」を実出席とオンラインのハイブリット形式（会場：神戸大学 瀧川記念学術交流会館）で開催した。重大事故報告、歯科医から見た外傷予防報告、フラッグフットボールオリンピック追加競技承認記念講演、栄養管理講演、膝前十字靭帯損傷の最新知識講演、質疑応答などを行った。参加者は、177 名であった。

## 1 2) ドーピング検査

定款第 5 条第 1 項第 6 号に関連する事業として、(公財)日本アンチ・ドーピング機構の指定によりライスボウルにおいてドーピング検査を実施した。ドーピング検査は、専門機関である日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が行った。検査の結果陽性例は無く、アメリカンフットボールがクリーンスポーツであることを広く発信できた。

※以上は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施した。

### 1 3) アンチ・ドーピング講習会

定款第 5 条第 1 項第 6 号に関連する事業として、2023 年度は下記の通り、実出席又はオンライン形式でアンチ・ドーピング講習会を開催した。

多くの指導者、選手はアンチ・ドーピングの趣旨は理解しているものの、禁止薬物に関する知識、持病等で処方を受けている薬物の事前申請 (TUE)、居場所情報提出の手続きなどについて十分な知識を有しているとは言い難く、啓発活動の一環として講習会を開催した。

- ・ジュニア フラッグフットボール インターナショナルカップ

日時：2023 年 5 月 24 日

対象者：選抜選手及びスタッフ、59 名

- ・フラッグフットボール・アジア・オセアニア大陸選手権

日時：2023 年 9 月 29 日

対象者：日本代表選手及びスタッフ、35 名

- ・日本選手権 ライスボウル

日時：2023 年 11 月 21 日

対象者：出場予定チーム及びスタッフ、52 名

- ・U20 世界大会トライアウト (関東地区)

日時：2024 年 3 月 24 日

対象者：U20 トライアウト参加選手及トレーナー、81 名

- ・U20 世界大会トライアウト (関西地区)

日時：2024 年 3 月 31 日

対象者：U20 トライアウト参加選手及トレーナー、82 名

※以上は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施した。

### 1 4) 受講者推薦 (JSPO 公認スポーツドクター及びアスレティックトレーナー養成講習会)

定款第 5 条第 1 項第 6 号に関連する事業として、日本スポーツ協会が主催する講習会に加盟団体より推薦者を募り、スポーツドクター養成講習会 5 名、及びアスレティックトレーナー養成講習会に 4 名の応募があった。スポーツドクターは全員を受講生に推薦した。アスレティックトレーナーは、医・科学委員会で 2 名に絞って推薦し (JSPO から推薦は順位をつけて 2 名までとされているため)、JSPO の審査で 1 名が受講生となった。

Jafa から推薦したドクター、トレーナーが資格取得後に、アメリカンフットボールの現場で安全対策の業務に参画することが目的であり、今後もこの条件を満たす受講者を推薦する。

### 1 5) アメリカンフットボールに適した競技場の設置促進

定款第 5 条第 1 項第 7 号に関連する事業として、各地の自治体等が球技場を設置する情報収集を心掛けている。2023 年度においてはアメリカンフットボール準専用スタジアム、富士通川崎

スタジアムの周辺施設の改修工事が続いており、工事日程とゲーム日程についての調整を行った。

#### 1 6) CFO 会議への競技規則委員派遣・参加

定款第 5 条第 1 項第 5 号及び第 8 号に関連する事業である。アメリカンフットボールは、全米大学体育協会（NCAA : National Collegiate Athletic Association）で毎年競技規則が改訂され、それに伴い審判員のメカニックも米国 CFO（College Football Officiating LLC）で改訂されている。

この変更の主旨を正確にかつ迅速に把握するために、毎年 5 月・1 月に実施される CFO のフットボール・コーディネーター・ミーティングにオブザーバー参加した。（オブザーバー参加は日本のみ）。この会議で得た情報をもとに競技規則変更予定報、決定報、競技規則書を次年度に発行する予定である。

また、上記に加え審判技術取得、向上のためにナショナル・レフェリー・カンファレンス、及びナショナル・インスタントリプレー・クリニックにも関係者を派遣し、日本審判協会内で共有日本審判員の技術向上を図った。

- ・ナショナル・レフェリー・カンファレンス

日時：2023 年 5 月 12・13 日

場所：米国 テキサス州ダラス

主催：米国 大学フットボール審判協会（CFO College Football Officiating LLC）

参加：1 名（競技規則委員会の副委員長）

- ・ウインター ミーティング DALLAS

日時：2024 年 1 月 22～24 日

場所：米国 テキサス州ダラス

主催：米国 大学フットボール審判協会（CFO College Football Officiating LLC）

参加：1 名（競技規則委員会委員）

#### 1 7) WEB サイトによる情報発信

定款第 5 条第 1 項第 9 号に関連する事業として、JAF A 専用の WEB サイトを活用して、国内外の競技情報、JAF A が主催する日本選手権ライスボウルの情報、試合結果、JAF A の各委員会の活動に関する情報を発信し、JAF A の法人としての公開情報を掲載した。

##### ① 国際試合関連（現地レポート、試合結果等）

- ・ 7 月 ジュニア・フラッグフットボール・インターナショナルカップ 2023

- ・ 10 月 フラッグフットボール・アジア・オセアニア大陸選手権

- ・ 3 月 ジュニア・フラッグフットボール・インターナショナルカップ 2024 選考会

- ・ 3 月 U20 世界大会トライアウト

##### ② 国内選手権等

- ・ 12 月 フラッグフットボール日本選手権（小中学生）

- ・ 1月 日本選手権ライスボウル
  - ・ 3月 フラッグフットボール日本選手権（一般）
- ③ 各委員会活動関連の広報、告知等
- ・ 高校向けクリニック、クロスオーバーアスリート測定会、公式規則変更および規則書、公認指導者講習会、安全対策等
- ④ JAJFA の法人情報
- ・ 定款、規程、事業計画・報告、予算・決算報告、役員名簿、JSC 助成金事業報告、ガバナンスコード自己評価書等

## 1 8) 殿堂顕彰

定款第 5 条第 1 項第 10 号に関連する事業として、日本アメリカンフットボールの殿堂ホームページにて紹介している第 5 回までの殿堂顕彰者の紹介内容を更新し、同時に日本のアメリカンフットボールの歴史紹介ページの 2023 年度分の記録を更新するとともに、2024 年度は日本のアメリカンフットボール 90 周年であり企画内容などの準備を始めた。

また、昨年に引き続き殿堂顕彰者の方々と日本協会のパイプ継続のために、ライスボウルおよびドリームジャパンボウルのプログラムを顕彰者、ご遺族、関係者に発送をすると同時に、ライスボウルプログラムに顕彰者の皆様の紹介が載っていることも案内した。

## 1 9) 関係団体・機関との情報交換・連携

定款第 5 条第 1 項第 11 号に関連する事業として、国際アメリカンフットボール連盟 (IFAF)、公益財団法人日本スポーツ協会 (JSPO)、公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC)、独立行政法人日本スポーツ振興センター (JSC)、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構 (JSAA)、一般社団法人日本トップリーグ連携機構 (JTLL)、一般社団法人大学スポーツ協会 (UNIVAS)、公益財団法人日本フラッグフットボール協会 (JFFO)、特定非営利活動法人日本ワールドゲームズ協会 (JWGA) 等関係団体・機関と密に情報交換を行い、連携して活動した。

### ① 国際アメリカンフットボール連盟 (IFAF)

2023 年度の I F A F の年次総会は 11 月にフランス・パリで開催され、寺田会長が出席した。2028 ロサンゼルスオリンピックへの出場国（地域）をどう決定するか、IOC が各競技の各国 NF に求めるオリンピック・ムーブメントの実践・継承等にフットボール界としてどのように取り組んでいくか、などが話し合われた。また、アジア大陸担当理事が空席であったため、昨年アジア・オセアニア大陸選手権を成功させた主催国マレーシアのダリル・ナサニエル氏の選任が付議され承認された。

### ② 公益財団法人日本スポーツ協会 (JSPO)

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格のうち、アメリカンフットボール指導員資格の認定業務を共同で実施するとともに、有資格者の義務研修を実施して資格保有者の資格更新を促した。また、フラグフットボールに公認指導者資格を新設するための協議を行い、次年度より実施する運びとなった。

スポーツドクター、ならびにアスレティックトレーナーの養成講座の受講生候補者については、公募のうえ選出して推薦した。

### ③ 公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）

昨年 6 月に当協会の会長に就任した寺田氏は、その直後に日本オリンピック委員会の監事への就任も決まり、JAFa と JOC の距離が縮まり情報がタイムリーに入ってくるようになった。

IFAF が IOC の正加盟団体となったことを受け、当協会も JOC の正加盟団体への申請を行い、本年 3 月 21 日開催の JOC 理事会で承認された。但し、これは 2029 年 3 月末までの時限的な承認とのことである。

### ④ 独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）

スポーツ振興センターの助成金事業に応募し、くじ助成事業として「ドーピング検査事業」「ドーピング防止啓発事業」、「ガバナンス強化事業」、「フットボールアカデミー事業」及び「タレント発掘事業」を行った。

また、次年度のくじ助成申請として「ドーピング検査事業」「ドーピング防止啓発事業」、「ガバナンス強化事業」、「フットボールアカデミー事業」及び「タレント発掘事業」「ホームページ作成事業」の申請を行った。

基金助成については、U20 世界選手権（遠征）について申請を行ったが、JOC 正加盟になることで、申請条件不適合となることが判明し取り下げ書を提出した。

### ⑤ 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）

日本アンチ・ドーピング機構の協力を得て、日本選手権ライスボウルでのドーピング検査を、実施した。

### ⑥ スポーツ庁

スポーツ庁発出の照会内容については、適時加盟団体にも周知した。

中央競技団体としてガバナンスコードの遵守へ向け定期報告を行った。

また、日本選手権「ライスボウル」の後援をいただいた。

### ⑦ 一般社団法人日本トップリーグ連携機構（JTL）

エックス・リーグ（社会人アメリカンフットボール協会）が加盟する日本トップリーグ連携機構の会議に寺田会長、渡部理事が参加し、日本トップリーグ連携機構メンバーのエックス・リーグとともに NF（統括団体）の立場から日本における球技スポーツ競技の発展の共同歩調している。

⑧ 一般社団法人大学スポーツ協会 (UNIVAS)

UNIVAS が理念の体現に貢献した運動部学生やスポーツに関わる学生、団体を表彰する『UNIVAS AWARDS 2023-24』のマン・オブ・ザ・イヤー部門の最優秀賞に立命館大学アメリカンフットボール部で主将を務めた山下憂さん（四年）が選ばれた。山下さんは他競技を含めて優秀賞としてノミネートされた 8 人からただ一人、最優秀賞を受賞した。

同部門の入賞（23 人）には関西大学アメリカンフットボール部で学生の年間最優秀選手（チャック・ミルズ杯）に輝いた須田啓太さん（三年）が、ウーマン・オブ・ザ・イヤー部門の入賞（18 人）には武庫川女子大学タッチフットボール部の新田咲都さん（3 年）がそれぞれ選ばれた。この 3 人はアメフト、タッチフトから初の受賞者となった。

また、UNIVAS CUP に参加するとともに、医療従事者支援制度を活用した。協会サイトでの動画配信事業など、様々な取り組みにより競技の普及活動に協力いただいた。

以上

## II 内部統制体制の整備についての決定および運用状況の概要

### 1. 現状整備されている内部統制関連規程

- 社員総会運営規程
- 理事会運営規程
- 旅費規程
- 役員等の費用弁償規程
- 役員の報酬等の支給の基準
- 謝金規程
- 倫理懲罰規程
- 内部通報規程
- 殿堂顕彰規程
- 寄附金等取扱規程
- 会計規程
- アンチ・ドーピング規程
- 個人番号及び個人情報の保護に関する基本方針
- 個人情報及び個人情報の保護に関する基本規程
- 管理運営基金取扱規程
- 日本代表チーム編成規程
- 加盟団体に関する規程
- 印章の管理に関する規程
- 理事等の職務権限規程
- 理事会提出役員選任議案作成に関する基準
- 就業規則
- 委員会規程
- コンプライアンス委員会運営要領
- アスリート&コーチ委員会運営要領
- 法人カード利用規程
- 助成金交付規程
- 利益相反管理規程
- 役員候補者選考委員会規程

### 2. 2023年度、内部統制関連規程の改定等

- 旅費規程（改定）  
2023年度第6回理事会（2024年1月28日）
- 謝金規程（改定）  
2023年度第6回理事会（2024年1月28日）

### 3. 内部通報関連

2023 年度通報 0 件  
2023 年度解決 0 件

重要な事項は、すべて事業報告に記載した。

以上